

## わが国の社会資本を思う前に考えること

東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授 屋井鉄雄

今からもう10年以上前になるが、30年以上の年月をかけて幾多の計画変更を余儀なくされながらも、ミュンヘン新空港が開港した。地元と根気強く議論を重ねた末の1992年のことであった。その後の10年で、同空港の離着陸回数は2倍以上に増し、欧州を代表する空港の1つとして発展している。当時、私は同空港の計画プロセスを調べるプロジェクトに関わっていた。同時期に計画がスタートしながら未完の成田空港との対比も関心ごとであった。そして、計画変更の柔軟さを持ちながら、計画確定後は司法の判断に委ねる断固としたドイツの仕組みから多くのことを学んだと思う。

さて、ミュンヘン新空港が開港した同じ時期、米国ではISTEA(陸上交通効率化法案,1991年)という新たな法律を制定し、1980年代に疲弊した全国の陸上交通システムの再構築を推進し始めていた。そこで脚光を浴びたのがパブリックインボルブメント(PI)である。すでに、社会資本構築のために、納税者、利用者、地域住民等の理解は必須な条件であった。いかに早い段階から住民を含む様々な関係者に計画の重要性を理解してもらうか、いかに早く意見表明の機会を提供するかが懸案となり、それまで事業化段階で行われていたPIを、計画の初期段階にまで遡らせる法制化を行ったのであった。

筆者は1994-5年に米国に滞在する機会があり、PIが進展する様子を見聞きし、ドイツとは対照的で、地域やプロジェクトに応じて、柔軟な方法を模索する米国方式に戸惑いながらも、将来わが国に無秩序に導入される不安も感じていた。米国のPIは当時十分に理解されていなかったため、まず体系的な理解が急務と考え、PIの導入には比較的消極的な立場から研究を始めた。

その後、米国の行政や地域社会が熱心に工夫する姿や、今では東京外環などでもお世話になるマーシー・シュワルツさんら専門家と議論するうち、事態は急を要することが分かってきた。PIを出来るだけ早く日本流に作り上げ、地域の個性に合わせて浸透させることが急務であり、躊躇してこの機を逃せば、社会資本整備自体が滞る結果に至ると思うようになった。PIはこれからの社会資本整備の必要条件との確信を抱くようになったのである。

その証拠に、昨今の公共事業を取り巻く問題の多くは、社会資本そのものの必要性や重要性の観点よりも、むしろ計画や事業の決め方、進め方に対する疑念から発生したものが多し。にもかかわらず、適切な対応をその論点で示さないため、事業の必要性に対する議論が重箱の隅をつつくまで延々と繰り返される。計画や事業の決定に至るプロセスを真摯に改善している姿が見えず、計画プロセスが国や地域で国民や市民等と共有されていないのである。国民を納得させる法制化や体系化が進んでいないのである。

ゲーテの書いたファウストをご存知であろうか。筆者は講義でも度々引用するのだが、ファウストにはPIのエピソードが書かれている。しかも、失敗談である。ファウストは、

悪魔に魂を売る代償に今生で何物をも手にする。紙幣を発行し国を富ませたり、黄泉の国から美女を蘇らせたり。でも、何によっても満足できない。最後に彼が今生に思い残すことは無いと思うのは、荒れた土地を開墾して新しい都市を築かせ、そこに多くの民が幸せに暮らす姿を見る瞬間である。時よとどまれお前はいかにも美しい。ファウストは、我々シビルエンジニアの抱く夢と同じ理想を実現して、人生の終焉を迎えるのである。

しかし、そのファウストにもたった1つの後悔がある。それは、都市づくりを進める最中、その土地に古くから住む老夫婦に立ち退きを求めたが合意を得られず、ある晩不審火により不幸にも彼らを焼死させてしまったことである。必要性、公益性の高い事業の推進と、被害を受ける弱者の救済、それら両者をどのように進めるかという論点、一世紀以上前に書かれたこの物語はPIの本質をついている。

ファウストは悔いを残したが、いかに早い段階からPIを開始するか。これは現代のシビルエンジニアに求められる課題である。人々がまだ関心を抱かない段階からのPI。しかし、そこからスタートしなければ問題解決は困難になっている。最終的に影響を受ける弱者の救済と、初期段階では無関心な多数への対応、両者を積極的に推進しなければならない。

すでに、行政の意識も変わりつつある。ほんの4,5年前に殺伐とした雰囲気でした住民説明会を開催していた地域でも、今ではオープンハウスという新しい形態で個々の市民と計画の初期の段階から直接会話が行われている。行政も市民も同じ場所に立ち、和やかにコミュニケーションを進め、市民の評価も概して高い。

わが国の社会資本整備を思う前に考えることがある。ドイツやスイスの社会資本建設現場の看板は、「我々はあなた方のために働いている」、「あなた方のために建設している」と、胸を張って宣言している。わが国もそうありたい。そうでなければ、今後、優秀な若者はこの分野に関わろうとはしないだろう。手遅れではないと思うが、その実現のためにまず重要な構造改革がある。それは経済、財政、行政、そのいずれにも関わる。すでにお分かりだと思うが、それは、我々自身、皆の意識構造改革なのである。

以上